



大山 尚美 議員

問 介護保険・生活支援サービスの充実は

答 誰もが安心して暮らせるよう検討していく

一、介護保険料改正にあたって

問 医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供する「地域包括ケア」の考え方が示されています。「定期巡回」、「随時対応型訪問介護看護」、「夜間対応型訪問看護」「複合型サービス」の計画数はゼロになっていきますが、町の具体的な取り組みはどのように考えていますか。

答 人口20万人程の地域では随時対応、夜間対応が可能です。人口の少ない所では非常にコストがかさむため実施が難しいと考えられます。

二、

問 本人の生活状況に合わせて、必要な時に必要なだけ保健福祉サービス等が利用出来る基盤整備の推進の内容は。

答 誰もが安心して暮らせるよう、今後協議検討していきます。

三、

問 高齢者が介護ボランティア活動を通して地域貢献する制度で、ポイントと交換する事が出来ます。この制度は、国が「地域支援事業」の一環としてスタートさせています。制度導入については。

答 高齢者が介護ボランティア活動を通して地域貢献する制度で、ポイントと交換する事が出来ます。この制度は、国が「地域支援事業」の一環としてスタートさせています。制度導入については。

四、

問 県がすすめている、地域ささえあいのしくみ事業をやっていると思うのですが、介護ボランティアポイント制度導入に関しては、協議検討していきます。

五、

問 子ども達は、通学時の安全対策は

答 子ども達は、通学ルートを守っていたにもかかわらず、日本各地で小学生が巻き込まれる大きな事故が相次ぎましたが、① 各学校で通学路の安全点検をしていますか。② 学校の安全教育は。③ 通学路の整備の進捗状況は。

六、

問 日頃から安全点検は行っていますが、今回の相次ぐ事故を受け、各学校に通学路の安全確認を特にお願いしました。安全教育は、学級指導等定期的に行っています。道路は、通学路優先で整備していきます。

問 狭い道路等では、登下校時の車進入の時間規制などが必要と思いますが。

答 警察署の管轄部分もあるので、なかなか難しい部分もありますが、ブロックで歩道、車道の分離や、グリーンベルトの設置を推進し

七、

問 現在滑川町のドクターヘリの指定離着陸場は、どこになっていますか。

答 土塩球場と、役場前の総合運動公園です。

問 ドクターヘリの指定離着陸場の増設についての考えは。

答 指定離着陸場の要望箇所があれば伺います。消防署とよく話し合っています。町としては、南部方面の設置を検討していきます。



各地域で行われる健康体操（山田下集会所）



問 高齢者が安心して暮らせる町に

答 全町で「健康づくり」に取り組む

一、高齢者が安心して暮らし続けることができる滑川町にするための現状及び今後の施策の考えは

問 第5期の介護保険料の基準額（第4段階）は月額4600円となり、第4期と比べ6000円の負担増となりましたが。

答 町の介護保険の認定率は15・6%となり、県平均13・2%と比べ高くなっています。認定者数・居宅サービス・介護給付費の総額も増えており、やむをえず値上げとなりました。

問 今後の施策について。

答 町の重点施策は、「病気や介護の予防、リハビリテーションの普及」「介護や福祉に関する分かりやすい情報提供」「住民同士の地域の助け合いの促進」「高齢者の持つ様々な能力の活用」などです。



上野 憲子 議員



楽しみながら健康づくり

状をどのように考えますか。
答 今後職員等からの提案をもとに「健康づくり」の施策を行い医療費の軽減になるよう行っていきます。

二、乳幼児のワクチンは種類が増え、接種には計画が必要と思われるが

問 妊産婦さんに対する指導は。

答 赤ちゃんが誕生すると町から「子どもの予防接種スケジュール帳」を送り、多くは、かかりつけ医が作成し管理しているようです。

問 嵐山町では、任意接種の水痘・おたふく風邪・ロタウイルスに助成をし、接種を受けやすくしていますか。

答 嵐山町では、窓口払いの廃止をしない予算で、それらの措置を行っているそうです。今後は、他の地域の情勢をみながら行います。

三、食品等の放射性物質の検査について

問 消費者庁からの放射線量測定器の貸与が決定したということですが、学校給食の食材の測定を行なっていく考えは。

答 主体は滑川町でとれた野菜ということですが、教育委員会と協議しながら今後、すすめていきます。

問 元気に高齢化社会を迎えられるよう「健康づくり」に町をあげて取り組んでいくとありますが。

答 滑川町健康づくり推進委員会を立ち上げ、議会にはかり、町民全体で行えるように考えています。

問 高齢化率は県でも低く7番目に若いまちであるのに、医療費が伸びている現



北村 徳章 議員

問 ふれあいバス利便性向上は

答 南部を中心に増便を図ります

一、町内ふれあいバス（コミュニティバス）の活用について

問 ふれあいバスの活用状況と、今後の取り組みをどのように考えていますか。

答 23年度利用状況実績値は延べ6070人で、水曜日2862人・金曜日3208人が利用し、一日平均は61人となっております。今後の取組みは、バス停の改修と南部を中心に増便を図ってまいります。

問 今年度はふれあいバス運行委託料として370万円、ふれあいバス停制作工事費として357万円の計7

27万円の予算が計上されていますが、年間何日運行されているのですか。

答 週2回の運行で年100回程度です。

問 入札の結果、一日約2万6千円という額で契約をされています。

答 運行委託料を利用者数で割ると約609円程ですが、県内でコミュニティバスを運行している行政は47市町村あり、そのうち滑川町の様に無料の自治体もある中、定額（100円程度）を徴収して毎日運行している自治体が多いようです。

県の実施状況表によると、

年末年始や土日祭日が運休ですが、平日は運行しているところが多く、運行本数も2回なのは滑川町だけのようです。

問 有料化をして利便性を向上させる考えは。

答 デマンド交通などを調査し議論した結果、当面はふれあいバスの充実を図って行き、利用人数の多い南部を重視した路線増便などの運行体系に現在見直しをしています。

問 高齢化が避けられない時代へと変わる中、年齢と共に老化による視力や判断力の低下など、自動車の運転も自他共に危険になっていく

と思います。このような将来の高齢化環境で、バスの役割は重要と考えますが。

答 確かに高齢になると免許証の更新が難しくなり返納したが、その後交通の便に支障を来す方が増えてくるのが予想されます。

ふれあいバスの充実を図り今すぐ出来ることを試験的に取り組みたいと思っています。

二、町道182号線（追山）について

問 昨年9月議会で質問した町道182号線の進捗状況を教えてください。

答 用地買収をして拡幅するのは、地元関係者や東松山市等の協力が無いと大変難しいと考えています。

しかしながら、現在の舗装等の状況を見ますと、大変悪いと認識をしておりますので、地元区長さん、あるいは議員さんから要望がある中で舗装の補修や交通安全対策・草刈などを実施しながら、何年か先には、用地買収をする形では無く、舗装の補修をする中で少しでも舗装の幅員が広げられるように計画をしていきます。

停留所名 通過時間	
滑川町役場	
水曜日	金曜日
08:00 発 山崎町	08:00 発 山崎町
08:15 着 山崎町	08:15 着 山崎町
08:30 発 山崎町	08:30 発 山崎町
08:45 着 山崎町	08:45 着 山崎町
09:00 発 山崎町	09:00 発 山崎町
09:15 着 山崎町	09:15 着 山崎町
09:30 発 山崎町	09:30 発 山崎町
09:45 着 山崎町	09:45 着 山崎町
10:00 発 山崎町	10:00 発 山崎町
10:15 着 山崎町	10:15 着 山崎町
10:30 発 山崎町	10:30 発 山崎町
10:45 着 山崎町	10:45 着 山崎町
11:00 発 山崎町	11:00 発 山崎町
11:15 着 山崎町	11:15 着 山崎町
11:30 発 山崎町	11:30 発 山崎町
11:45 着 山崎町	11:45 着 山崎町
12:00 発 山崎町	12:00 発 山崎町
12:15 着 山崎町	12:15 着 山崎町
12:30 発 山崎町	12:30 発 山崎町
12:45 着 山崎町	12:45 着 山崎町
13:00 発 山崎町	13:00 発 山崎町
13:15 着 山崎町	13:15 着 山崎町
13:30 発 山崎町	13:30 発 山崎町
13:45 着 山崎町	13:45 着 山崎町
14:00 発 山崎町	14:00 発 山崎町
14:15 着 山崎町	14:15 着 山崎町
14:30 発 山崎町	14:30 発 山崎町
14:45 着 山崎町	14:45 着 山崎町
15:00 発 山崎町	15:00 発 山崎町
15:15 着 山崎町	15:15 着 山崎町
15:30 発 山崎町	15:30 発 山崎町
15:45 着 山崎町	15:45 着 山崎町
16:00 発 山崎町	16:00 発 山崎町
16:15 着 山崎町	16:15 着 山崎町
16:30 発 山崎町	16:30 発 山崎町
16:45 着 山崎町	16:45 着 山崎町
17:00 発 山崎町	17:00 発 山崎町
17:15 着 山崎町	17:15 着 山崎町
17:30 発 山崎町	17:30 発 山崎町
17:45 着 山崎町	17:45 着 山崎町
18:00 発 山崎町	18:00 発 山崎町
18:15 着 山崎町	18:15 着 山崎町

ふれあいバス時刻表



問 小規模水力発電の推進を

答 県の動向を注視し、可能性を検討

一、小規模水力発電の推進を

問 今夏の電力不足への懸念が高まる中で、低コストで安定的な発電が可能なことから、太陽光や風力発電などの新エネルギーとともに、小規模水力発電への取り組みが期待されています。

本年7月から全量買取制度が施行され、小規模水力発電は、買取価格24円から34円/kWh、買取期間20年になる見通しです。

小規模水力発電は、ダム等の大規模設備を必要としないだけでなく、太陽光発電や風力発電と比較して発電効率が高く、安定した発電量を確保できます。滑川町内で活用できる水資源としては、河川堰水、農業用水路、上水道、下水道があります。その可能性については。

答 小水力発電は立地条件が難しいといわれてきましたが、小さな落差でも発電

できる技術開発も進み、埼玉県でも、さいたま市水道局などで100kW以下のマイクロ水力発電が導入されています。今後、町としても原発事故や電力不足の経験を踏まえながら、県の動向や取り組みを注視し、事業の可能性について検討していきます。

二、食品の放射線量測定器の活用は

問 消費者庁は、「食の安全」を取り戻すために、国民生活センターと共同して自治体に放射線量測定機器を貸与し、消費者サイドでも食品の放射性物質を検査する体制を整備していこうとしています。

滑川町は初期段階から要望し、第4次配分で滑川町に貸与することが決定しました。

今後、東京直下型地震、東海地震などの大地震が発生すると予想される中で、再度放射能汚染の可能性もあり、町内に食品の高性能放射線量測



上野 廣 議員



他自治体で貸与された食品の放射線測定器



定器が一つ確保できることになり、なんとか安心できる環境ができるかと期待されます。

そこで、貸与される食品の放射線量測定器の機種・性能導入スケジュールはどのようになっているのか。また、導入後の活用方法は。

答 機種名は不明ですが、シンチレーション方式の高性能機種で、20分で10ベクレル測定可能であるといわれています。配備は9月上旬で、

滑川農協を予定しています。活用ですが、町で生産している野菜・果物の測定を主にしていきます。

問 本測定器の活用方法として、子どもの給食材料を測定することは可能ですか。

答 本測定器を町内で有効利用することが大事、測定を開始し、時間的に可能であれば、給食材料を測定することは問題ないと考えます。